

# 福井県議会だより 第9号

|      |                 |       |            |
|------|-----------------|-------|------------|
| 1    | 5月臨時議会、6月定例会の概要 | 11～12 | 常任委員会      |
| 2～3  | 議員の紹介           | 13～17 | 特別委員会      |
| 4～5  | 代表質問            | 18～19 | ピックアップ県政課題 |
| 6～10 | 一般質問            | 20    | 議案等議決結果    |



## 議長・副議長あいさつ



第97代議長

仲倉 典克



第102代副議長

大久保 衛

県民の皆様には、日ごろから県議会に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

このたび、5月臨時議会で推挙を賜り、第97代議長および第102代副議長に就任いたしました。

現在、本県には、地方創生への取組み、北陸新幹線の県内早期開業や敦賀以西ルート決定、原子力発電所の安全対策、福井しあわせ元気国体・元氣大会に向けた環境整備など重大な課題が山積しております。このような時期に、その職責の重大さに身の引き締まる思いでございます。

私ども県議会が、常に県民の声に耳を傾け、皆様の意見が県政に反映されるよう、正副議長力を合わせ、一層の努力をまいりますので、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 5月臨時議会・6月定例会の概要

議員の改選に伴う第18次民主議会在がスタートしました。

新たに7人の議員が誕生し、それぞれ精力的に議員活動を始めます。

5月12日に開いた臨時議会において、仲倉典克議員が第97代議長に、大久保衛議員が第102代副議長に選出されました。

また、「人口減少問題を調査する」「人口減少対策特別委員会」をはじめ四つの特別委員会の設置などを決めました。

このうち、予算決算特別委員会は、議長を除くすべての議員が所属し、これまでの予算、決算両特別委員会の機能を合わせて持つ委員会に改編されました。

決算審査結果の翌年度予算への反映や予算・県政重要案件の審議の充実が期待されます。

6月定例会は6月24日に開会し、7月17日までの24日間にわたって審議を行いました。

開会日の本会議終了後には全員協議会を開催し、知事から提出された補正予算案をはじめとする14議案の説明を受けました。

今定例会では、地方創生・人口減少対策、北陸新幹線や中部縦貫自動車道の整備促進、観光振興、原発防災対策、国体開催に向けた取り組み、さらには18歳選挙権への対応まで広範囲にわたり、活発な論戦が行われました。

このような審議を経て、閉会日には、追加上程された監査委員任命の議案を含め、知事提出議案全てが可決または同意されるとともに、請願・陳情5件、議員から提出された意見書2件についても採決を行い、今定例会に付議された案件の審議を終了しました。

# あなたのまちの議員を紹介します!!



**山本 文雄**  
良

災害に備えた安全政策、北陸新幹線、九頭竜川パイプライン、大河ドラマ誘致など、豊かな地域づくりに邁進します。



**西畑 知佐代**  
良

共に考え、共に働く  
安心して心豊かに暮らせる  
故郷づくりのために



**斉藤 新緑**  
良

美しい日本を、  
子々孫々に  
伝えるために。



**小寺 惣吉**  
良

明日は、今日の未来  
かけがえないふるさと  
確かな明日のために  
今私たちにできること。



**菅岡 一彦**  
良

“光り輝くふくい”を子ども  
たちに残せるように、議会の仲  
間と力を合わせて県を前へ進  
めてまいります。



**鈴木 宏紀**  
良

本県に住む皆さんが幸福度日  
本一をしっかりと実感できる  
「ふるさと福井県」の実現に  
向け、全力投球！



**山岸 猛夫**  
良

私心を捨て 公につくす



**坂井市**  
(定数4名)

**勝山市**  
(定数1名)



**松井 拓夫**  
良

元氣な福井、心の通う福井、  
夢と希望をもてる福井・勝山  
をめざし「人に街に今、元氣  
の種をまこう」政治信条です。



**島田 欽一**  
良

今、地方創生を形にする為総合戦  
略の策定で十分に協議していま  
す。これからは地方が国を支える  
時代です。一緒に頑張しましょう。

**丹生郡**  
(定数1名)



**田中 敏幸**  
良

北陸新幹線の金沢開業によ  
り、新しい北陸の時代を迎え  
ました。環日本海時代を築く  
ために尽力します。



**田村 康夫**  
良

4期目、多くの支援者・企業・  
友人に支えられ感謝！謙虚に  
奮ることなく行動力を持って  
頑張らせて頂きます。



**大久保 衛**  
良

県民の安全安心。普通の生活  
が送れる生活環境を整えるよ  
う取り組みます。



**関 孝治**  
良

北陸新幹線と地方創生  
どう組み合わせる福井の活力  
につなげるか。期待と共に頑  
張って行こう。



**仲倉 典克**  
良

伝えよう！地域の絆と美しい  
郷土を。福井らしさを大切に、  
自分らしさを失わず活動して  
まいります。



**細川かをり**  
無所属

次世代に、平和で豊かな社会、  
真の幸福をつなげましょう。  
そして、エデュケーション  
ファースト！



**宮本 俊**  
良

地方創生の波の中、今、福井  
は本当に大切な時です。「一  
人ひとりに幸せ福井」、全力  
でがんばります。



**辻 一憲**  
良

草の根の声を県政に伝えます。  
暮らしと雇用を支え、災  
害対策、教育、魅力ある地域  
づくりに取り組みます。



# 議員の紹介



**山本 芳男**  
やまもと よしお  
自民

ふるさとの発展、未来を担う子どもたちのため、地方創生、スポーツ振興など、全力で県政の発展に取り組みます。



**野田 富久**  
のだ とみひさ  
みらい

借金、戦争、核（原発）、この根源的課題に取り組む。勤労大衆と社会弱者の目線で政策を提言する。



**山本 正雄**  
やまもと まさお  
みらい

元気な福井県づくりには教育立県が基本。学力・体力日本一を高校・大学が連携した“22年教育”を一層推進。



**松田 泰典**  
まつた やすのり  
自民

北陸新幹線の前倒しや高速交通網の整備、地方創生への本格的取組により、新たな福井の時代を創りたい。



**佐藤 正雄**  
さとう まさお  
共産

初当選以来、毎週福井駅前・県庁前で県政報告実行中。県民の立場で原発・新幹線の問題点を追及しています。



**畑 孝幸**  
はた たかゆき  
自民

『ふくい創生・人づくり・地域づくり!!』  
『信頼と情熱』



**大森 哲男**  
おおもり てつお  
自民

三期目の最初の今議会、課題山積のなか、与えられた質問機会を活かし、県民益実現を目指します。



**中井 玲子**  
なかい れいこ  
自民

「越前朝倉曲水の宴」の演者になりました。福井県を愛し県民の皆様幸せのために精一杯!! 頑張ります! 朝倉の和する心をここに。



**西本 恵一**  
にしもと けいいち  
公明

未来を担う子どもたちが、夢をおおいに拓くことができる希望と安心の社会をめざし、全力で働きます。



**長田 光広**  
ながた みつひろ  
自民

国体・新幹線・中部縦貫道etc...好機到来の福井。皆さまの声を県政に届け、守り高めるため頑張ります!



**井ノ部 航太**  
いの べいこうた  
希望

4月に初当選させていただいた井ノ部航太です。「ふるさと日本一」の福井を目指して、県民のみなさまと共に全力で頑張ります!



**清水 智信**  
しみず ともひろ  
自民

若者が福井で夢や希望をもって暮らせる様がんばります。



**石川 与三吉**  
いしかわ よそきち  
自民

福井県の重要課題に取り組みます。活力のある嶺南敦賀の発展に努めます。あなたの声を大切にします。



**糴谷 好晃**  
こうじに よしあき  
みらい

福井県は歴史・文化や、自然がいっぱい。これらに磨きをかけて、ふるさとを力を一層アップさせよう。



**力野 豊**  
りきの ゆたか  
自民

「笑顔あふれる豊かな郷土の実現に向けて」を信条とし、地域経済の活性と安心安全なインフラ整備に邁進。

福井市  
(定数12名)



| 会派凡例 |                    |
|------|--------------------|
| 自 民  | ：自民党県政会            |
| 民 主  | ・民主・みらい            |
| 共 産  | ：日本共産党<br>福井県議会議員団 |
| 青 藍  | ：青藍会               |
| 公 明  | ：公明党               |
| 希 望  | ：希望ふくい             |
| 無所属  | ：無所属               |



**大飯 宏典**  
たなか ひろあき  
(定数1名) 自民

地域の皆さんの安全と安心が確保できるよう、しっかり取り組んでいきます。



**中川 平一**  
なかがわ へいち  
自民

日本の伝統と文化を守り、福井県の人口減少対策のためにも、北陸新幹線若狭ルートの実現に全力をつくすのみです。



**西本 正俊**  
にしもと まさとし  
青藍

「地域密着宣言」県民の皆様により良きパートナーとして地域に密着し活動します。



**小堀 友廣**  
こほり ともひろ  
自民

「心づくり、地域づくり、人づくり」を信条に、子供の健全育成、ふるさとづくりの県政を目指します。



**小堀 友廣**  
こほり ともひろ  
(定数3名) 自民

小浜市三方郡  
三方上中郡

## ◆代表質問

自民党県政会

山岸 猛夫 議員



### 知事の政治姿勢について

#### 問

4期目のマニフェストである「福井ふるさと元氣宣言」において、知事は4つのビジョンと12の政策を掲げ、国が「地方創生」と「人口の一極集中の是正」を第一の政策として掲げたことに対応する形で、マニフェストでも一番目に「人口減少に歯止めをかける徹底戦略」が記載されている。知事は以前、「地方創生は競争

である」と述べたが、地方の競争が激化する中で、いかに魅力あるふるさと福井を実現できるか、知事の政治手腕が問われることになる。「福井ふるさと元氣宣言」の実現に向けて、どのような決意を持ってこの4年間取り組もうとしているのか伺う。

#### 答

人口減少社会の到来や地方と都市の格差拡大が深刻化する中で、地方創生に向け県民の全ての力を合わせた地域の力を発揮することが重要である。この4年間には、中部縦貫自動車道の大野延伸、また福井国体開催、さらには8年以内の北陸新幹線敦賀開業など、本県の立地条件、ポジションを飛躍させるチャンスが次々到来する。

こうした新しい局面の中で県政を着実に次のステージに引き上げるため、人口減少問題の対応など、総合力を重視した政策を突破口を発揮して実行していかなければならない。

福井は歴史・文化・産業に誇るものも多く、それを生かしながら幸福日本を一をさらに高めると同時に、それが住んでいる人や、来訪者の目に見え、実感できるようにしていく。

### 地方創生について

#### 問

福井県版の総合戦略について、本年2月議会において、「来年度中に策定したい」、「市町が策定する戦略との連携も十分に図っていききたい」との答弁・説明があったが、先月、唐突に「本年10月中旬に策定する」と発表した。

今月19日には、策定に向けて、県内の経済界、大学、市町の代表者らによる推進会議の初会合も開かれたが、市町によつては、年度末に戦略を策定する予定のところもある。県の策定スケジュールについて、議会への説明時期も含めあらためて伺うとともに、市町が策定する戦略と十分に連携のとれたものとする事ができるのか、知事の見解を伺う。

#### 答

来月には、県内各ブロック地域での意見交換会を順次実施する。その後、推進会議の第2回目を7月下旬、もう一回を9月に開催する予定である。

県議会に対しては、戦略の策定までに至る間、随時十分に説明をし、意見・提言をいただいで、戦略に反映してい

きたい。戦略に盛り込む事業は、来年度の国の交付金の対象事業にもなるので、この獲得のためにも10月中には戦略を策定したい。

なお、市町との連携については、これまで首長との会議や担当部局との連絡会などを実施するなど考え方の共有を図っており、これから各市町の協議の場に参加するなど、十分に連携をとっていききたい。

### 健康福祉行政について

#### 問

高齢社会の進展により、医療を必要とする高齢者の増加が見込まれ、地域医療をどう構築していくかが問われている。地域医療の充実を検討していくに当たっての課題の一つには、医師不足が挙げられる。私の地元、奥越地域では、医師などの体制が整わず、「地元で手術を受けたり入院することができない」という不安の声を聞く。その一因として、本県で養成した医師の約半数が他県へ流出しているということがあり、早急な対策の必要性を感じている。

昨年6月、国は、「医療介護総合確



保推進法」を制定した。それを受けて、本県においても、現状を踏まえて地域医療の将来について構想し、その構想が実現できるよう対策を講じていかなければいけない。

知事は、本県の地域医療の現状と課題をどのようにとらえているのか、また、課題の解決に向け今後どのような対策を講じていくのか伺う。

答

福井県の地域医療の現状については、人口当たりの医者の数、病床数は全国平均を上回っているが、大規模病院が福井ブロックや坂井ブロックに集中するなどの偏在が見られる問題がある。また、高齢者の増加が見込まれる中で、医療資源を有効に活用するために、状態の安定した患者については、在宅医療・介護を充実させることが重要である。

このため、関係するファンドを活用し、修学資金貸与による人材確保、救急搬送体制の強化や診療情報の共有、在宅ケアシステムの県下全域への展開などを進めている。

今年度は、医療関係者や市町と協議をしながら、病床の見直しなど2025年における地域医療構想を策定し、質の高い医療・介護体制を整備していく。

民主・みらい  
梶谷 好晃 議員



## 福井定住の推進について

問

県では、「地方版総合戦略」を策定するため、「ふくい創生・人口減少対策推進会議」を立ち上げ、本格的な議論をスタートさせた。

既に平成26年度2月補正と27年度当初の一体予算で、地域の縁結び活動拡大や3人目の子供の出生支援など自然減対策を盛り込み、今回の6月補正では、U・イターン促進など社会減対策にも積極的に取り組んでいる。

「県民幸福度」と「子どもの幸福」のダブル日本一という評価も得ているが、人口の社会流出が北陸三県で最も高いという現実にも直面している。全

国的に地方回帰という兆候が見られつつある今、福井定住をより確実なものにするための県の戦略について伺う。

答

大都市と福井県の一生涯の生活コストの収支バランスの比較や、子育て、教育環境の良さを数値化する「人生トータル設計書」を作成し、高校生や大学生等に配布するほか、全国メディアにも取り上げられるよう働きかけていく。

また、移住希望者の仕事のニーズは様々であるので、今年度からUターンセンターの求人開拓員がニーズにあう企業を探し、マッチングを図っていく。さらに、県内企業において若者が世界で活躍する様子などを伝えようとにも、本社機能の誘致、園芸カレッジや伝統工芸職人塾の充実など、総合的な政策を実施していく。

## 派遣社員に対する県独自の支援策について

問

福井県の子育て支援策は、全国的にも注目されているが、そもそも福井県の将来を支える若者が、低賃金や、期限付きの不安定雇用では将来が不安で結婚もできないということになり、福井県の子育て支援策にも

影を落としかねない。

私達は、今国会での派遣法改正の成立を決して望む立場ではないが、成立の際には、福井県内企業で働く派遣社員の皆さん方が、安心して暮らせるよう、正社員への登用制度の充実を企業に求めるなど、福井県独自の支援策が必要と考えるが、知事の見解を伺う。

答

県では、非正規社員の正規化に向けて、ジョブカフェのマッチングアドバイザーが中心となり、昨年度、約1300社の企業を訪問して正規求人働きかけた。また、若者に対して相談から就職まで、一貫して支援を行っており、昨年度は、就職者713人を実現し、うち約8割が正規雇用されている。

また、県の産業技術専門学院において、介護、福祉などの資格取得訓練を実施し、昨年度は127人の正規雇用を実現した。

さらに、国のキャリアアップ助成金という制度があるが、昨年度、福井県では191人分が活用されており、福井労働局と連携して、多くの県内企業に制度の活用をしていただくよう働きかけていく。

## 質問と答弁ごとの音声データの掲載について

福井県議会では、代表質問および一般質問について、従来のライブ中継や録画中継に加え、音声データを質問と答弁ごとに分割し、本会議終了後、当日中にホームページに掲載し、全ての質疑およびその答弁の内容をわかりやすく速やかに情報提供することとしておりますので、ぜひご利用ください。

○アクセス方法 福井県議会ホームページトップ画面から

- 「インターネット中継」の中の「県議会質問・答弁内容」をクリック
- 一覧表の議員名をクリック
- 「質問要旨・内容」または「答弁内容」の「音声データ」をクリック

## 一般質問

### 諸団体と連携し

#### 学びの森を全県で

辻 一憲 議員  
(民主・みらい)



### 問

子供が小さいころから自然に触れ、親しんでいくことは大切であることから、身近なところで安全面も考慮した自然体験の場所が必要である。このため、各市町や市民活動・NPO法人等と連携して、各市町に1カ所以上体験プログラムを提供するスタッフがいる里山里海湖自然の学びの森を整備すべきと考えるが、所見を伺う。

### 答

人の暮らしと自然とのかかわりを学ぶ「ふるさと学びの森」は、現在、里山里海湖研究所において3カ所に設置しているが、県としては、全県的に展開するために、各団体、企業と協力し、体制の整ったところから登録し、支援する。これによって各市町に1カ所以上の「ふるさと学びの森」を整備し、本県の里山に触れて親しめる機会をふやしていきたい。

### その他の質問事項

○福祉行政、労働政策、農山村・里山里海政策

### 国体、新幹線開業に

#### 向けたPR戦略

清水 智信 議員  
(自民党県政会)



### 問

福井の知名度の低さから、ふるさとに自信を持てない福井の若者が多く、ふるさとに誇りを持てれば、Uターンする若者がふえていくのではないかと。福井国体や北陸新幹線敦賀開業など、全国的に福井県が目されるビックチャンスが目前に迫っている中、今後、どのような戦略で福井県をPRし、知名度を高めていくか、所見を伺う。

### 答

近代日本の幕開けに活躍した多くの偉人たちが福井から輩出されており、テレビドラマの誘致や、自然環境面では世界標準である「年縞」、福井の豊かな自然、生活の中で育まれた「食・食文化」、日本遺産の認定を受けた若狭地域の歴史環境など、福井が誇る「本物」の魅力をさまざまな手段で分かりやすく、国内外に発信し、福井の知名度・好感度を高めていきたい。

### その他の質問事項

○スポーツ選手のセカンドキャリア等

### 北陸新幹線の

#### 福井駅先行開業

井ノ部 航太 議員  
(希望ふくい)



### 問

えちぜん鉄道及び北陸新幹線の高架工事の工期短縮が不可能な場合、えちぜん鉄道福井口駅から福井駅間のバス代行による利便性低下が懸念される。その中で福井駅先行開業にどのように対応しようとしているか。

### 答

与党の検討委員会において、えちぜん鉄道のバス代行を原則として回避することを前提に、えちぜん鉄道と北陸新幹線、それぞれの高架橋工事の工期短縮にさらなる検討が進められている。北陸新幹線の福井あるいは敦賀までの一日も早い完成・開業は、経済波及効果の早期発現につながるため、県としては、検討委員会において、用地取得や埋蔵文化財調査など最大限の努力をすることを伝えている。

### その他の質問事項

○福井県の地域ブランド力の向上、観光誘客に向けたPR等



一乗谷朝倉氏遺跡の

観光戦略

中井 玲子 議員  
(自民党県政会)



問

日本最大の戦国城下町の遺構である一乗谷朝倉氏遺跡について、博物館の整備や朝倉氏庭園の再生を行うことだが、どのように整備し、ミュージアム化していくのか方針を伺う。

答

これまで、眺望の整備や案内の充実などを進めてきたが、今後、観光客が本当に楽しみながら学べる展示・ガイダンス機能を備えた博物館の整備に向けた基本計画の策定に着手する。また、歴史空間としての魅力を一層向上するため、特別名勝庭園の再生、往年の歴史が感じられる景観づくりなどを進め、遺跡内の回遊環境を整えていく。これらについては、博物館の整備や山城を含めた朝倉氏遺跡全体の整備・活用が必要であるため、県と福井市で効果的に実行できる推進体制を検討し、実行していきたい。

その他の質問事項

○アサから始まる地域振興等

福井県の

原子力政策の見通し

田中 宏典 議員  
(自民党県政会)



問

原発再稼働や廃炉対応などの課題に加え、電力システム改革により平成28年には小売りの自由化、平成32年には発送電分離が行われ、原子力発電を取り巻く環境が大きく変わる。「地元として安全確認の強化が必要」との答弁があったが、立地県や立地市町としての対応が大きく変わるのか、現段階における所見を伺う。

答

立地地域にとって原子力発電所の安全確保は最優先の課題であり、システム改革により競争が激化した環境において事業者が資金と人材を積極的に投入して安全を確保するよう、県は立地市町とともに、より注意深くチェックをしなければならぬ。原子力規制委員会は、現場を重視し実効性のある規制を行うため、その機能を立地地域に移転するなどの対応が必要である。

その他の質問事項

○地方創生と人口減少対策等

民間シエルターへの

支援策及び連携

西畑 知佐代 議員  
(民主・みらい)



問

DV被害者への支援のため重要性が増す民間シエルターについて、継続して運営するための支援の検討と公的な相談所等も含めた関係機関による連携した体制づくりを検討すべきと考えるが所見を伺う。

答

民間シエルターへの支援策として、新たに補助対象に施設改修を追加し、また、補助額の増額および補助率の引き上げにより、支援内容を拡充した。人件費、光熱費についても助成の対象とする他県の事例を参考にし、今後のさらなる支援内容の拡充を検討していく。

その他の質問事項

○特殊詐欺対策等

地域鉄道を利用した

地域活性化

長田 光広 議員  
(自民党県政会)



問

新幹線開業に向けて、今後並行在来線の議論が具体的に進むことになるが、並行在来線やえちぜん鉄道等の沿線の利用促進について各駅を中心とした地域活性化の可能性を含めて検討すべきと考えるが、本県における鉄道を中心とした地域活性化について、所見を伺う。

答

本県では、地域鉄道を地域活性化の柱と位置づけ、沿線市町とともに多額の財政支援を行ってきた。これから北陸新幹線の県内開業が行われるが、その間に北陸新幹線と並行在来線、小浜線、越美北線を含めた地域鉄道、バスとのダイヤ接続を改善し、さらに利用者をふやしながら、駅周辺の商業施設のにぎわいなどにつなげていきたい。

その他の質問事項

○福井のブランド発信、若者の県外流出抑制、農業政策等

## 原子力規制体制の 課題と今後の対応

力野 豊 議員  
(自民党県政会)



### 問

原子力規制委員会は独立した組織であるが、事業者の疑問には答えない、議論を途中で打ち切る、他の専門家の意見には耳を傾けようなどといった極めて独善的である。これでは、住民の安心と安全が確保できているとは到底思えない。我が国の原子力規制体制の課題及び今後の対応について、知事の所見を伺う。

### 答

原子力規制委員会は、立地地域に対する説明責任を十分に果たさないこと、運営方針、また、時間の観念に乏しいことに課題がある。県は、原子力規制委員会の運営状況を常時監視し、改善を勧告する機関等の設置や、現地事務所の人員体制の充実を求めている。

原子力規制委員会を、国民の理解と信頼が得られ、立地地域により近いところで判断できる組織とする必要があると考える。

### その他の質問事項

○有害鳥獣対策 等

## 社会を明るくする 運動への取り組み

佐藤 正雄 議員  
(日本共産党福井県議会議員団)



### 問

犯罪者の立ち直り支援について、雇用の犯罪抑止への効果は明瞭であり、政府は、地方公共団体に対し、犯罪や非行をした者の雇用支援体制の構築等に取り組むとしている。全国的には、知事を先頭に「社会を明るくする運動」への激励やキャンペーンを県民に見える形で強化しているが、知事が積極的はこの運動に取り組む決意はあるか伺う。

### 答

県はこれまで司法、教育、社会福祉等県内のさまざまな団体とともに犯罪や非行のない安全で安心な社会を築く「社会を明るくする運動」を進めている。また、出所した高齢者や障害者に対し、適切な福祉サービスを提供をあっせんする地域生活定着支援センターの運営や社会復帰を支援する更生保護施設の整備への助成も行っている。引き続き、この運動を県民全体のつながりの中で進めていく。

### その他の質問事項

○戦争法案 等

## 丸岡城の国宝指定

小寺 惣吉 議員  
(自民党県政会)



### 問

5月、島根県の松江城が国宝になることが決まった。先日、松江市に伺い、国宝化実現までの過程を教えていただいたが、研究者の地道な調査とそれを支えた地元の人々の熱意が重要なポイントだと感じた。丸岡城の国宝化について、坂井市と協力し、必要な調査や運動を展開すべきと考え、所見を伺う。

### 答

国宝に新たに指定されるには、建築時期の特定や建築歴史上の卓越した価値を明らかにする必要がある、築城に関する古文書調査、建築部材の科学的な年代調査から新たな知見を得なければならぬ。このため、城郭建築の専門家からの意見を聞き、早期に調査に着手したい。国宝の申請の主体である坂井市に頑張っていたら、同時に、県も坂井市や丸岡地区の住民と協力しながら、連携して国宝指定を目指したい。

### その他の質問事項

○農業政策 等

## 大学枠を超えた 活動サークル

山本 正雄 議員  
(民主・みらい)



### 問

今回の補正予算には人口減少に歯止めをかける徹底戦略として、若者チャレンジ応援プロジェクト事業が盛り込まれており、大学の枠を超えて学生が連携する活動サークルの結成に向けた準備の構想があるが、どのようなイメージを描いているのか、構想と見通しを伺う。

### 答

来年度開催予定の大学連携断型の学生サークルの結成を応援したいと考えている。地域のイベント、お祭りを応援し、地域を元気にする活動や合同大学祭の開催など、学生間交流を促進させる活動を想定している。来年度に合同大学祭を本格実施できるように準備行為を行いたいと考えており、これらの活動を通し、福井の魅力の体感、郷土愛への醸成、そして、ともに企画を実施することによる出会いの創出にもつながりたい。

### その他の質問事項

○県都ビジョン、原発行政 等



## えちぜん鉄道と福井 鉄道との相互乗り入れ

野田 富久 議員  
(民主・みらい)



### 問

えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れには、地方鉄道と路面電車の二つの運転免許が必要であり、運転手交代や要員確保の課題のほか、試運転、ダイヤ便数の調整、保安業務賃金改定、清算方式等、経営や運営、保線等の課題が尽きない。平成27年度内相互乗り入れ運行に向けたソフト部分の主要課題とその協議状況、今後の工程について伺う。

### 答

現在、両鉄道事業者において、運行ダイヤ、車両や施設の運用等、運転保守関係の具体的な調整を進めており、年内には合意に至る予定である。また、運賃体系については、乗り継ぎ割引が基本になると聞いている。

今後、車両について国の安全確認を受け、1月以降に試運転を行い、来年春の相互乗り入れが確実に実施できるよう進めていきたい。

### その他の質問事項

○観光戦略とその情報発信等

## 「名実ともに幸福度 日本一」に向けて

鈴木 宏紀 議員  
(自民党県政会)



### 問

本県は幸福度ランキング日本一との調査結果があるが、これを前面に出して人口減少対策に取り組んでいくならば、県民が実感できているかどうか、意識調査を実施する必要があるのではないかと。県民の意識と客観的な数値に大きな乖離がある場合は、その課題を解決し、県民が実感できるようにしてこそ、名実ともに幸福度日本一だと思うが、所見を伺う。

### 答

幸福度に対する県民の意識は、調査結果と大体相関的な関係にあると思う。多くの県民が幸福を実感できるように県ができることは、生活の基礎条件を向上させることである。よい面を強化し、伸びる部分を改善する政策を進め、幸福をあらわすものができるだけ多く発見し、考え出しながら、県民の気持ち盛り上がっていくよう頑張っていきたい。

### その他の質問事項

○福井県版総合戦略、ビジネス化されたいと納税等

## 県庁の勤務環境

大森 哲男 議員  
(自民党県政会)



### 問

県職員の超過勤務縮減のため、民間事業者へのアウトソーシングをさらに進めたり、優先順位をつけた事業の見直しをするべきである。業務効率向上の取り組み実績、成果を伺うとともに、今年度策定される第4次行財政改革実行プランには、職員のワーク・ライフ・バランスの推進について盛り込むべきと考えるが、所見を伺う。

### 答

本県職員数は、全国最少水準であり、職員の負担がふえないよう、毎年度、実績や成果をもとに約五百件の事務事業の見直しを行っている。また、定型的な庶務業務や秘書業務等をアウトソーシングし、平成23年度以降で83人分、34業務を民間に委託している。今後とも特定の人、所属に仕事が集まらないよう、職員の仕事と生活の調和に努めていきたい。

### その他の質問事項

○北陸新幹線金沢開業の効果と今後の戦略等

## 生活困窮者の支援

西本 恵一 議員  
(公明党)



### 問

4月から生活困窮者自立支援制度がスタートし、相談窓口が設置されているが、生活困窮者の方は、みずからSOSを発信することが難しい。生活困窮世帯への訪問活動など、アウトリーチを含めた相談体制や、地域の関係機関や部署との連絡体制の構築による早期発見、早期支援等が必要であるが、県の対応状況はどうか。

### 答

町の福祉担当職員に制度の説明を行い、町に相談に来た方が支援を必要とする場合は、健康福祉センターに連絡するよう依頼している。また、町の民生児童委員の総会等に県職員が出向き、協力を依頼し、健康福祉センターに情報提供があった場合は、県職員が町職員や民生児童委員とともに訪問し、状況や課題の調査等を行うこととしている。

### その他の質問事項

○福井駅先行開業とえちぜん鉄道高架化、観光政策、18歳選挙権等

## 座ぶとん集会

宮本 俊 議員  
(自民党県政会)



### 問

県民と直に接することができ、きる絶好の機会である座ぶとん集会を利用し、知事が県のトップとしてのリーダーシップを発揮して、北陸新幹線や原子力発電など県政の重要課題についてみずからの思いを話し、県民を導くことも必要ではないか。それが県民世論を喚起し、県民運動にもつながると考えるがどうか。

### 答

座ぶとん集会では、参加者から幅広い意見が出るよう自由意見交換ができる雰囲気づくりに努めている。県としての積極的な説明について、その必要性は感じているが、会合の趣旨から他の機会における実施がよいと考えている。今後も県民にわかりやすい県政を実現するため、私（知事）を含め職員による現場主義を徹底し、さまざまな意見を直接反映していきたい。

### その他の質問事項

○経済新戦略、社会福祉法人改革等

## 数値にあらわれにくい教育活動の重要性

細川 かをり 議員  
(無所属)



### 問

子供たちにとって集団生活の学習の場である特別活動の時間が、学校5日制導入や外部要請による付加的な活動等のために減少している。教育大綱を策定する知事や教育長は、数値にあらわれにくい教育活動の重要性を認識し、子供たちや教員の自主性、創造性、意欲が損なわれないようすべきだが、認識を伺う。

### 答

人間関係を築く上で大切な時間として、各学校でも特別活動に積極的に取り組んでおり、平成12年度からは、キャリア教育やふさと教育を重視する総合的な学習の時間が導入され、特別活動の時間とあわせて、子供たちの自主性や意欲を伸ばす教育を進めている。「福井の教育」向上会議でも、体験を通じた自主性、創造性を伸ばすことの大切さについて意見があり、年内に策定する教育振興基本計画にも、反映させていきたい。

### その他の質問事項

○ネット依存対策、国体等

## 委員会の新しい構成

### 常任委員会

総務教育常任委員会

◎松田 泰典 ○小寺 惣吉  
山本 芳男 山本 正雄  
中川 平一 佐藤 正雄  
鈴木 宏紀 力野 豊  
辻 一憲

厚生常任委員会

◎宮本 俊 ○田村 康夫  
山本 文雄 山岸 猛夫  
糀谷 好晃 田中 宏典  
細川 かをり 西本 恵一  
長田 光広

産業常任委員会

◎中井 玲子 ○斉藤 新緑  
関 孝治 野田 富久  
松井 拓夫 大久保 衛  
島田 欽一 小堀 友廣  
井ノ部 航太

土木警察常任委員会

◎畑 孝幸 ○田中 敏幸  
石川 与三吉 笹岡 一彦  
大森 哲男 西本 正俊  
西畑 知佐代 清水 智信

### 議会運営委員会

◎山岸 猛夫 ○中川 平一  
野田 富久 笹岡 一彦  
糀谷 好晃 大森 哲男  
田中 宏典 中井 玲子  
小堀 友廣

### 特別委員会

予算決算特別委員会

◎田中 敏幸 ○松井 拓夫  
(委員は議長を除く全議員)

新幹線対策特別委員会

◎関 孝治 ○大森 哲男  
野田 富久 松田 泰典  
笹岡 一彦 大久保 衛  
畑 孝幸 小寺 惣吉  
細川 かをり 西本 恵一  
長田 光広 井ノ部 航太

原子力発電・防災対策特別委員会

◎山本 文雄 ○中川 平一  
石川 与三吉 斉藤 新緑  
佐藤 正雄 仲倉 典克  
糀谷 好晃 田中 宏典  
小堀 友廣 力野 豊  
辻 一憲

人口減少対策特別委員会

◎田村 康夫 ○鈴木 宏紀  
山本 芳男 山本 正雄  
山岸 猛夫 田中 敏幸  
松井 拓夫 西本 正俊  
西畑 知佐代 島田 欽一  
中井 玲子 宮本 俊  
清水 智信

(平成27年5月24日現在)  
◎印は委員長 ○印は副委員長



## 総務教育常任委員会

### ○教育委員会関係

教員の多忙化に対する取り組みに関し、「具体的にどのように進めていくのか」との質問に対し、「昨年度は20校で会議の効率化等に取り組んだ。今年度は、県内全校で業務改善を実施する」との見解が示された。また、「教育に関する大綱」の基本的考え方に関し、「社会力を伸ばすための取り組みについて、農業体験等幅広く実施してほしい」との質問に対し、「今後は自主性を伸ばし、自分達で、工夫・企画できるように、地域の方等の応援も得ながら進めたい」との見解が示された。

### ○総務部、国体推進局及び選挙管理委員会関係

福井しあわせ元気国体・大会の競技に関し、「女子水球が追加競技から漏れたことについて、県の真意はどうか」との質問に対し、「女子水球については、審判員や競技補助員等の確保が県外開催ということで難しく、また費用の問題もあるため追加競技に同意しなかった」との見解が示された。

このほか「県の財政状況」等の質問

イルミネーションを用いたまちづくり実践(体験学習)



があり、対応等が示された。

### ○総合政策部、会計局、監査委員及び人事委員会関係

北陸新幹線の敦賀以西ルートに関し、「JR西日本は米原ルートに乗り気でない。京都府、大阪府への若狭ルートの働きかけは、JR西日本を巻き込み、戦略を持って臨んでほしい」との質問に対し、「米原ルートは乗換えが必要であることを、県議会や県がそれぞれのパイプを使って伝えていくことが大事だと考えている。与党の検討委員会や若狭ルートに決められるよう進めていきたい」との見解が示された。

このほか「地方創生・人口減少対策」等の質問があり、対応等が示された。

## 厚生常任委員会

### ○安全環境部関係

廃炉ビジネス支援について、「産業労働部が所管すべき」との質問に対し、「技術研修や商談会について産業労働部や総合政策部と連携していく」との見解が示された。さらに他部局と所管のあり方を整理するよう要望があった。次に、廃棄物処理計画について、「好景気により増加が見込まれる廃棄物の適正処理に向けて目標を掲げて策定すべき」との質問に対し、「本委員会にも経過報告しながら、今年度内に

総合防災訓練(自衛隊による訓練)



計画を策定する」との対応が示された。さらに、自衛隊中心の防災訓練の実施を要請するよう要望があり、「今後検討する」との見解が示された。

このほか、「食べきり運動の実効性の確保」等の質問があり、対応等が示された。

### ○健康福祉部関係

要介護度の改善に対する交付金制度について、「要介護度改善により経営面や人材確保上の弊害があるかどうか」との質問があり、「制度利用は任意であるが、職員のプロ意識等の向上により、介護人材確保の効果もある」との見解が示された。さらに、現場の声を踏まえて取り組むよう要望があった。

次に、発達障害児支援について、「就学前の早い段階から適切な対応ができるよう、特に保護者への対策を強化してほしい」との要望があった。

また、児童虐待防止対策について質問があり、「189(いちひやくやく)ダイヤルや従来の通報体制の周知等に努めながら、確実に通報を受けられるようにしたい」との対応が示された。

このほか、「県外の福祉施設等の利用者への配慮」「県児童科学館プラネタリウム改修見通し」等の質問があり、対応等が示された。

## 産業常任委員会

## ○産業労働部及び労働委員会関係

本社機能の誘致についての質問に対し、「県外から福井に進出し生産拠点を有する会社に働きかけている。また、国の税制優遇措置の施行に合わせた計画策定準備や、企業誘致の補助制度の拡充要求をしている。今後は、研究開発など業績に影響されにくい部門の誘致にも努めていきたい」との対応と見解が示された。これに対して、「部門や企業、地域などの絞った戦略が必要であり、知事、副知事によるトップセールスを、より多く行うべきである」との意見が述べられた。



一乗谷朝倉氏遺跡(福井県観光新戦略)

このほか「中小企業の雇用対策」「オープンイノベーション推進機構」等の質問があり、対応等が示された。

## ○観光営業部関係

福井県観光新戦略について、「観光消費額の目標が高すぎるのではないかと。目標達成にはエリアやターゲットなど精査が必要ではないか」との質問に対し、「エリアの魅力を高め、周遊観光につなげ、入込客数を増やしたうえで、こだわりの土産品や体験の提供により、観光消費額を上げていきたい」との見解が示された。

このほか「大河ドラマ誘致」等の質問があり、対応等が示された。

## ○農林水産部関係

森林整備に関し、「森林所有者が森林組合に委託して間伐を行う際、うまくいかない事例があるが、県としてどう考えるか」との質問に対し、「森林組合に、間伐から精算までの手順を確認し、時間的余裕をもって進めるよう指導している。今後、研修を開催するなど指導を徹底していく」との対応と見解が示された。これに対して、「山の管理について、相談や権限を持つて対応する機関が必要」との要望が述べられた。

このほか「水産業の振興」等の質問があり、対応等が示された。

## 土木警察常任委員会

## ○公安委員会関係

道路交通法改正による認知症ドライバーの規制について、「75歳以上の運転者を対象とした免許更新時の認知機能検査について、免許の取り消しを回避しようとするトラブルも想定されるが、調査の公正性は確保されているか」との質問に対し、「検査により認知症のおそれがあると判定された全ての人の対して、指定医による、より専門的な検査を実施した上で判定するため、公正に危険運転者の排除が可能である」との見解が示された。

このほか、「インターネット利用による少年犯罪被害防止への取り組み」「DV相談時の警察の対応体制」「交番の設置基準」「小浜警察署の移転」等の質問があり、対応等が示された。

## ○土木部関係

舞鶴若狭自動車道について、「4車線化について、今後、どのように国に要望していくのか」との質問に対し、「開通後の交通量や波及効果などを総合的に勘案し、事業期間や対象の区間について、ほかの4車線化された事例等を参考に検討していく」との対応が示された。

舞鶴若狭自動車道



また、空き家対策について、「10月に「地方創生総合戦略」の策定が予定されている中、空き家の活用策のひとつとして、U・Iターン希望者に対する空き家購入やリフォーム等への補助を県内全ての市町で制度化するよう指導すべきではないか」との質問に対し、「県、市町等により設置した「福井県空き家対策協議会」において、先進的な市町の事例を紹介しながら、県・市町一体になって進めていく」との対応が示された。

このほか「敦賀港の整備」「入札制度の改正」等の質問があり、対応等が示された。



## 予算決算特別委員会

### ○地方創生・人口減少問題

福井県版総合戦略について論及があり、「総合戦略と福井県民の将来ビジョンの整合性はどうか」とただしたのに対し、「ビジョンの考え方を勘案しながら、今回の戦略に具体的な施策として盛り込んでいくものであり、両者の方向性は整合している」との見解が示された。また、「地方創生に県民の力を結集し、問題解決に当たるためには、一大県民運動とすべきではないか」とただしたのに対し、「11月に関係者が一堂に会し、戦略を実行していくための大会を開催し、気運を醸成したい」との対応が示されました。

このほか、大学連携センターの目標と実現見通し、ふくい園芸カレッジの活用、若者の心をつかむイメージ戦略について県の対応をただすとともに、提言を行った。

### ○北陸新幹線

敦賀以西ルートについて、論及があり、今後立ち上げが予定されている

与党の検討委員会において、どのような論拠により若狭ルートを主張するのかただしたのに対し、「日本海国土軸の形成や乗り換えの回避といった優位性を訴えていく」との見解が示された。

### ○観光行政

「石川県では、金沢城公園を中心とした長期的な観光地整備と大河ドラマ



由利公正広場

の誘致により成果を上げているが、本県も、全国に通用する目玉を作って、集客を図るべきではないか」とただしたのに対し、「北陸新幹線や高速道路が開通するまでの間に、ハード整備を含めて具体的なアクションプランを策定し、観光地の整備やまちづくりを行っていききたい」との見解が示された。

また、県内の観光資源を結んだ、ストーリー性のある観光ルートの開発についてただしたのに対し、「観光商談会等において、観光素材の提案だけでなく、地域に伝わる秘話や観光素材の隠れた魅力等を提案していく」との対応が示された。

このほか、公共サインのデザイン、多言語表示等について、県がガイドラインを策定し、県内で統一感を持たせるべきとの意見が述べられた。

### ○農林水産行政

九頭竜川パイプラインの活用策についてただしたのに対し、「メガファームの育成や業務用野菜など園芸作物の生産拡大を目指し、冷たくきれいな水を利用した農作物のブランド化と販売

強化に取り組みたい」との見解が示された。

このほか、中山間地域の農業振興、山林の地籍調査事業、嶺南地域の養殖振興について、県の対応をただした。

### ○教育行政

教育に関する大綱の策定について、県と市町の大綱の関係についてただしたのに対し、「教育大綱はそれぞれの自治体の首長の意思で決定されるが、市町の教育長との会議等で意見交換しながら、整合性を図っていききたい」との見解が示された。

### ○その他

県都デザイン戦略の中期目標事業、介護保険料の抑制、動物愛護行政、屋外広告物条例の見直し、敦賀港鞠山南区第2岸壁の整備、違法なエアガンの取り締まりなど広範多岐にわたり、論及があり、それぞれ理事者の見解と対応をただした。

※ 代表・一般質問で質問を行った以外の議員について記載しています。また、質問および答弁は発言の一部であり、詳しくは福井県議会HPで御確認いただけます。

## 産業技術総合研究所 の研究拠点の誘致

畑 孝幸 議員  
(自民党県政会)



問

知的財産立県を目指し、本県産業の更なる発展のために、日本最大級の公的研究機関である国立研究開発法人産業技術総合研究所の日本海側初となる研究拠点を、本県に誘致してどうか、所見を伺う。

答

本県においても、ふくいオーブンイノベーション推進機構において、ロボット分野のウェアラブル商品の研究について、産業技術総合研究所と緊密な連携を図っている。産業技術総合研究所は、産業技術分野の様々な研究開発について総合的に行っているため、今後、自治体間の誘致競争が激しくなることが予想されるが、ぜひ一度、本県への移転を提案し、感触を確かめた上で、誘致の可能性を検討したい。

### その他の質問事項

○交流人口の増大、中山間地域の農業振興策等

## 国道8号田結―元比田間整備促進

石川 与三吉 議員  
(自民党県政会)



問

国道8号バイパス田結―元比田間の整備促進は、敦賀市の要望、県議会での陳情採択から相当な年月が過ぎており、今回の国への提案要望への記載は、余りにも間を置きすぎているのではないか。

答

国道8号のバイパスについては、敦賀市街地の交通混雑の緩和、交通安全の確保のため、国が昭和47年から整備に取り組んでおり、敦賀新港へのアクセス道路や滋賀県方面から敦賀インターを結ぶ道路等が供用を開始している。また、国道8号は、敦賀市内で順次整備が進んでいるが、防災機能の強化等の課題が残っており、引き続き、田結―元比田間の整備を国に求めている。

### その他の質問事項

○敦賀港・山田地区の整備等

## 嶺南地域での 園芸カレッジ設置

西本 正俊 議員  
(青 藍 会)



問

今年度―CT技術のスマ―ト園芸コースを美浜町で実施する予定であるが、あわら市で行っているような新規就農等の園芸カレッジを嶺南にも設置すべきであると考え、所見を伺う。その際に、当面、かみなか農家舎を嶺南の園芸カレッジとする方法もあると考えるが、所見を伺う。

答

現在、あわら市で実施している園芸カレッジには嶺南からの研修生はいない。今後、嶺南の市町と、研修の要望の掘り起こしや、研修用の農地の確保などについて、協議、対応していきたい。また、かみなか農家舎については、日頃から連携しており内容はよく知っている。それを踏まえて検討していきたい。

### その他の質問事項

○福井県版総合戦略、農林水産業の振興等

## 出生率の低下

山本 文雄 議員  
(自民党県政会)



問

福井県は、平成18年に全国に先駆けて3人っ子政策を取り入れた。結果として全国から視察に来るぐらい有名となった、人口減少社会の日本一の先進県だと思う。ところが、統計的に見ると、かつては1位だった福井県の出生率が、現在は他県に追い越されている。これに対する知事の所見を伺う。

答

出生率の低下の要因として、若い女性が県外に出ること、また、晩婚化が進行していることにより、平成26年度の出生数自体が下がったことが数字にあらわれたと考えている。3人っ子政策や結婚応援を先進的に行ったが、こういうものは他の県がすぐ似たことをするので、絶えず先進県であるためにはどうすればいいか考えていきたい。

### その他の質問事項

○屋外(看板) 広告物条例等



## 教育大綱等の策定と 県と市町の関係

関 孝治 議員  
(自民党県政会)



### 問

首長が策定する教育に関する大綱や教育振興基本計画に係る県の策定スケジュールはどうなっているか。また、市町もそれぞれ策定することとなっているが、県との関係はどうなっているのか伺う。

### 答

「教育の目標や施策の方向を定める教育大綱を教育総合会議での議論を経て、秋ごろをめどに策定し、教育振興基本計画は、現計画が今年度までのため、「福井の教育」向上会議での検討や大綱を踏まえて、年内には策定していきたい。また、現在、11の市町で大綱の策定の検討を始めているが、県では市町の教育長と定期的に意見交換をしながら、整合性を図っていきたい。福井県はこれまでも全体としてまとまりよく教育行政を進めてきたが、特に思いがあれば、市町が特徴を出していただくこともやぶさかではない。

## その他の質問事項

○北陸新幹線 等

## 動物愛護行政

田村 康夫 議員  
(自民党県政会)



### 問

本県は、47都道府県において動物愛護センターがない3県のうちの1つであり、センターの整備を含めた動物愛護体制のあり方の検討に非常に時間がかかっている印象がある。今回の6月補正予算において、ふくい動物指導管理センター（仮称）基本計画策定のための244万円がようやく計上されたが、センターの完成時期も含めて、今後の具体的な進め方について伺う。

### 答

今回の予算においては、県動物愛護管理推進協議会の意見も踏まえながら、基本計画の中でセンターに必要な機能や適正な規模について検討を進めていく。その検討結果に基づき、場所の選定が行われれば、施設などハードの設計に入り、その後、建設工事の着手に進んでいくものと考えている。

## その他の質問事項

○人口減少対策、公安行政 等

## 知事の政治姿勢

笹岡 一彦 議員  
(自民党県政会)



### 問

県は10月に「ふくい創生・人口減少対策戦略」を策定するが、県民運動化しなければ、本来の目的はなかなか達成できない。そのためには、県民を包含した幅広い組織と本県独自の本格的な長期総合計画が必要である。また、人口目標など県民が丸となる目標設定が必要不可欠だと思いが所見を伺う。

### 答

10年先を見通した総合的計画については、平成22年度に「福井県民の将来ビジョン」を策定しており、今後10年間は、節目ごとにプロジェクトのプランを作成し、機会を生かしながら行動計画を立て実行に移すことが重要と考える。「ふくい創生・人口減少対策戦略」については、11月に戦略推進会議の委員や市町長等が会する大会を予定しており、機運を醸成したい。また、9月中旬までに適切な目標を検討していきたい。

## その他の質問事項

○北陸新幹線 等

## 請願・陳情について

### 1 請願・陳情とは

請願・陳情は、県民の皆様の意見や要望を県政に反映させるための大切な制度です。

県政について意見や要望がある方は、どなたでも議会に請願や陳情を行うことができます。

受理した請願・陳情は審査し、内容を適当と認めるときは採択し、県政に反映されるように努めています。

詳しくは、福井県議会ホームページ「ご案内」の中の「請願・陳情」のページをご覧ください。

### 2 お問い合わせ先

福井県議会事務局議事調査課  
電話 0776・20・0609

## 計報のお知らせ

去る5月23日に  
山田庄司議員がご  
逝去されました。



6月議会開会日には、本会議場で故山田議員への追悼演説と生前の功績をたたえる弔詞決議が行われ、仲倉議長から遺族へ弔詞が贈呈されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 新幹線対策特別委員会

### ○北陸新幹線の建設促進

福井先行開業に関し、「えちぜん鉄道の利便性や新幹線の便数を犠牲性にしないでまず先行開業はあるのか」との質問に対し、「金沢、富山並みの本数を確保してほしい。えちぜん鉄道のバス代行は、県民の利便性や会社の経営に影響を与えるので、与党の検討委員会に押し避けるよう工事短縮を強くお願いしている」との見解と対応が示された。また、先行開業への意欲についての質問に対し、「基本スタンスとして金沢―福井間、敦賀までの一日も早い開業



北陸新幹線(金沢駅)

を求めており、県としてもできることはすべてやる」との見解が示された。

敦賀以西ルートに関し、「米原につながる」と北陸から関西への大学進学者の激減の危機感から、関西の雰囲気が大分変わってきた。関西広域連合への戦略をどう考えているか」との質問に対し、「米原ルートに関し、はっきりしていない米原での乗り換えの発生が浸透すれば、潮目が変わるのではないか」との見解が示された。

このほか、「埋蔵文化財調査」等について質問があり、見解等が示された。

### ○並行在来線のあり方

並行在来線の石川県との一体的な経営に関し、「本会議で前向きな答弁があったが、現実的にはどうか。別会社の場合、最悪、県境で電車が折り返すようなことはないか」との質問に対し、「ダイヤは別々の会社の方が考えやすく、コスト面では一体的の方がよい部分もある。メリット、デメリットを整理したうえで、石川県と協議したい。乗客の利便性を第一に考えると、県境での折り返し運転ということはない。」との見解が示された。

このほか、「並行在来線の駅を中心としたにぎわいづくり」等について質問があり、見解等が示された。

## 原子力発電・防災対策特別委員会

### ○国の原子力政策に係る現状と課題

内閣府、資源エネルギー庁、原子力規制庁から参考人の出席を求め、エネルギー政策、原子力災害に係る広域避難計画、新規制基準に基づく審査状況等について、国の意見を聴取した。



資源エネルギー庁等参考人からの意見聴取

### ○原子力発電に係る諸課題

「本県の核燃料税の収収はどのような状況か。また、廃炉になった場合は課税できるのか」との質問に対し、「現在、出力割で年間約60億円を徴収しているが、廃止措置計画認可後は課

税でなくなる」との見解が示され、廃炉後の課税については、「来年の県核燃料税条例の改正に向け検討していきたい」との対応が示された。

また、「廃炉後の解体工事への地元業者の参画をどの程度応援していくのか」との質問に対し、「廃炉業務評価委員会において地元業者の製品の有用性を評価し、電力事業者に対し積極的な活用を推奨していきたい」との見解が示された。

このほか、「原子力発電に対する県民理解を得るための説明や広報」等について質問があり、見解等が示された。

### ○原子力防災対策

原子力防災訓練に多くの住民参加が得られる方策について質問があり、「避難訓練はもとより、スクリーンングや安定ヨウ素剤配布等、個別訓練にも参加が得られる方策を考えたい。また、昨年度、県内原子力発電所30キロメートル圏内の学校、病院、福祉施設で避難計画を作成しており、これに基づく訓練の実施を求め、住民の意識を高めたい」との見解が示された。

このほか、「より迅速かつ的確に避難判断を行うためのSPEDIの活用要請」等について質問があり、見解等が示された。



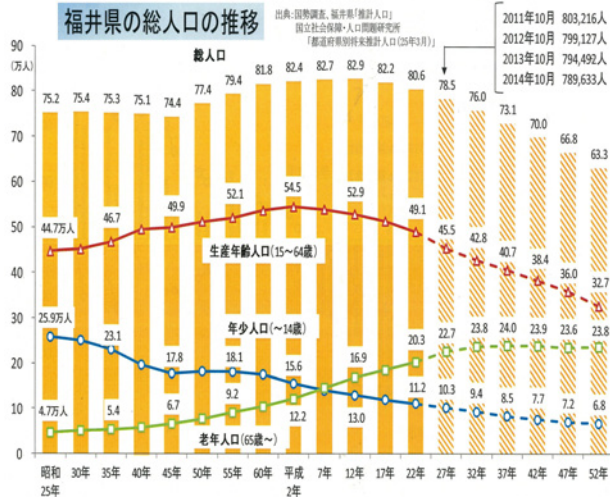
## 人口減少対策 特別委員会

### ○地方創生について

「地方から東京に人が集まると同時に、県内で人口が都市部で増え、中山間地域で減ることをどう考えるか」との質問に対し、「県としては、今あるコミュニティを残せないかというアプローチをする」との見解が示された。

### ○人口減少対策について

U・イターンの推進について、「県外に出た若者に帰ってきてほしいという情熱が必要であり、親への働きかけも大事ではないか」との質問に対し、「Uターン学生が多い関西での就職説



明会を充実し、保護者にはUターンセミナー等を開催している」との対応が示された。また「県内大学の魅力アップが重要であり、県内大学に対し、魅力ある大学作り、定員枠の拡大を要請すべき」との要望が述べられた。

### ○地方創生総合戦略策定について

戦略の大きな柱についてただしたのに対し、「人口の社会減、自然減に取り組む積極的戦略及び人口減少が進む中でより活力のある社会に変えていく適応戦略(地域活性化戦略)の二つの柱で考えていく」との見解が示された。また、「10月までに国に提出する策定スケジュールは厳しいのではないかと指摘に対し、「全くゼロから作るのではなく、既存事業を盛り込む。本県は3人の子政策やU・イターンなどに一日の長があり、それらを出していく」との見解が示された。また、「県として主体性を持って目指すところを明確にすべき」とただしたのに対し、「明確なビジョンを持つよりも、やってみて良いものは残し、悪いものは修正する手法で進める。目標は必要であり、市町や議会とも相談しながら主体的に考えていく」との見解が示された。このほか、「企業誘致のための人脈づくりや人的ネットワークの活用」等について質問があり、見解が示された。

### 傍聴のお知らせ

福井県議会では、2月、6月、9月、12月の4定例会の本会議と委員会を傍聴することができます。

**本会議の傍聴**は、当日の先着順となっております。電話での予約はできません。

議事堂2階の傍聴席入口前で傍聴券を受け取り、入場してください。

傍聴席には、車いす用のエレベーターを設置しているほか、代表質問日や一般質問日には手話通訳者を配置しています。

### 委員会の傍聴の受付は、各委員会開催日の3日前の正午までに傍聴

申出書を提出してください。

委員会当日は、開会予定時刻の15分前までに議事堂1階正面ホールで傍聴券を受け取り、入場してください。

ただし、傍聴希望者が定員を超えたときは抽選となります。

なお、申込者が定員に満たないときは委員会当日の申し込みを受け付けます。

議事調査課傍聴担当

0776-200609

## 第388回(9月)定例会 福井県議会

傍聴してみませんか!



### 9月9日(水)～10月6日(火)

|                                    |       |             |
|------------------------------------|-------|-------------|
| 9月9日(水)                            | 午前13時 | 本会議(提案理由説明) |
| 9月11日(金)                           | 午前10時 | 本会議(代表質問)   |
| 9月15日(火)・16日(水)                    | 午前10時 | 本会議(一般質問)   |
| 18日(金)・24日(木)・25日(金)・28日(月)・29日(火) | 午前10時 | 常任委員会・特別委員会 |
| 9月30日(水)・10月1日(木)                  | 午前10時 | 予算決算特別委員会   |
| 6日(金)                              | 午後2時  | 本会議(閉会)     |

#### ◎傍聴について

##### 1 本会議の傍聴

- ・本会議の傍聴は、当日の先着順になっており、電話での予約はできません。
- ・本会議の傍聴席には、車いす用エレベーター、手話通訳者を配置しています。

##### 2 委員会の傍聴

- ・委員会の傍聴は、各委員会開催日の3日前の正午までに傍聴申出書を提出して下さい。

※ 県議会に関する詳しい内容につきましては、以下の本県議会ホームページをご覧ください。  
→ <http://info.pref.fukui.lg.jp/sikai/zyukoso.html>

福井県議会事務局 お問い合わせ先 TEL 0776 (20) 0609

※日程は7月17日現在の会期(案)であり、変更される場合もあります。  
※最新の日程は県議会HPでご確認いただくか、議会事務局までお問い合わせください。

## 地方創生・人口減少対策

## 〇これまでの動きと今後の進め方

国は、昨年末に人口の将来展望を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、それを踏まえた今後5か年の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、全ての自治体に対して地方版総合戦略の策定を求めた。

本県においても、人口減少社会に対応した活力ある福井をつくるため、10月までに「福井県人口ビジョン」と「ふくい創生・人口減少対策戦略（仮称）」を策定し、結婚や子育て、U・イターン、雇用などの具体的な施策を定めていくこととされている。

県は、策定に当たり、産業界や大学、金融機関など各分野の代表者による「ふくい創生・人口減少対策推進会議」で審議するとともに、各地で意見交換会を実施し、幅広く意見・提言をもらうこととしている。第1回の推進会議は、6月19日に開催され、戦略の方向性について検討が行われた。7月に戦略素案の協議を行い、9月にはとりまとめ、10月には戦略を策定する予定となっている。

地方版総合戦略の策定に当たっては、議会と執行機関が車の両輪となって推進することが重要であるため、県議会においても、平成27年5月に「人口減少対策特別委員会」を設置し、今回の6

月定例会においても福井県の人口の推移や将来見通し、論点となる本県の優位性や課題、対策の方向性について説明を求め、それに關し熱心な議論が行われた。また、閉会後の7月には、県内各地区の意見交換会への参加に加え、特別委員会として先進県である島根県へ視察調査を行い、県や出雲市の定住促進策等の取組みについて意見交換するなど、積極的に活動している。



人口減少対策特別委員会 審査の様子

## 〇6月定例会での議論

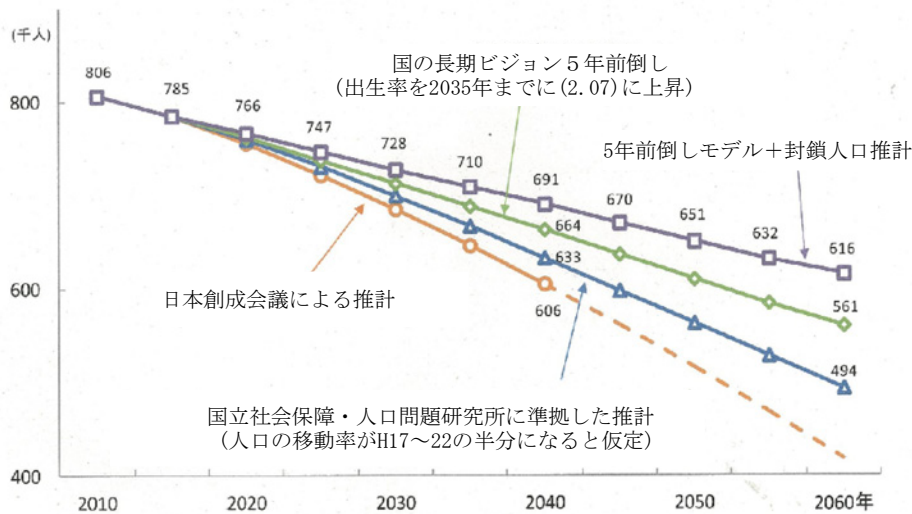
6月26日の代表質問では、県が策定する「ふくい創生・人口減少対策戦略（仮称）」について、「人口の将来的な動向や減少の原因をどのように認識し、また、流出を減らす取組みをどのように戦略に盛り込んでいくのか」と質したところ、知事から「本県人口は、平成52年、2040年には70万人を切って60万人半ばまで減少する。それに歯止めをかけるため、結婚の応援や子供を産み育てやすい環境の整備、若者の県内進学、県内就職とU・イターンの支援などの政策などを積極的に盛り込んでいく。」との考えが示された。

一般質問では、「新卒者のUターン率を今後どのように引き上げていくのか。」との質問に対し、「都市圏の本県出身学生に対する働きかけを強化し、率を引き上げていく。このため、知名度が低い企業の情報をあらゆる媒体で発信するとともに、企業誘致を進めていく。また、都市と福井の生活コスト等を比較、福井の暮らしのよさを見える化し、Uターンに結びつけたい」との見解が示された。

また、人口減少対策特別委員会では、「学生をUターンさせるため親に対するアプローチも必要ではないか」と質したのに対し、「福井の企業を知っていただき、親から子へ伝えていただくのが



## 福井県人口の将来見通し



出典:総務省統計局「国勢調査」、福井県将来人口推計シミュレーションツール、  
国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(25年3月)」および  
日本創成会議に基づく推計

一番効果的。秋に親向けの企業説明会もやりたい」との考えが示された。

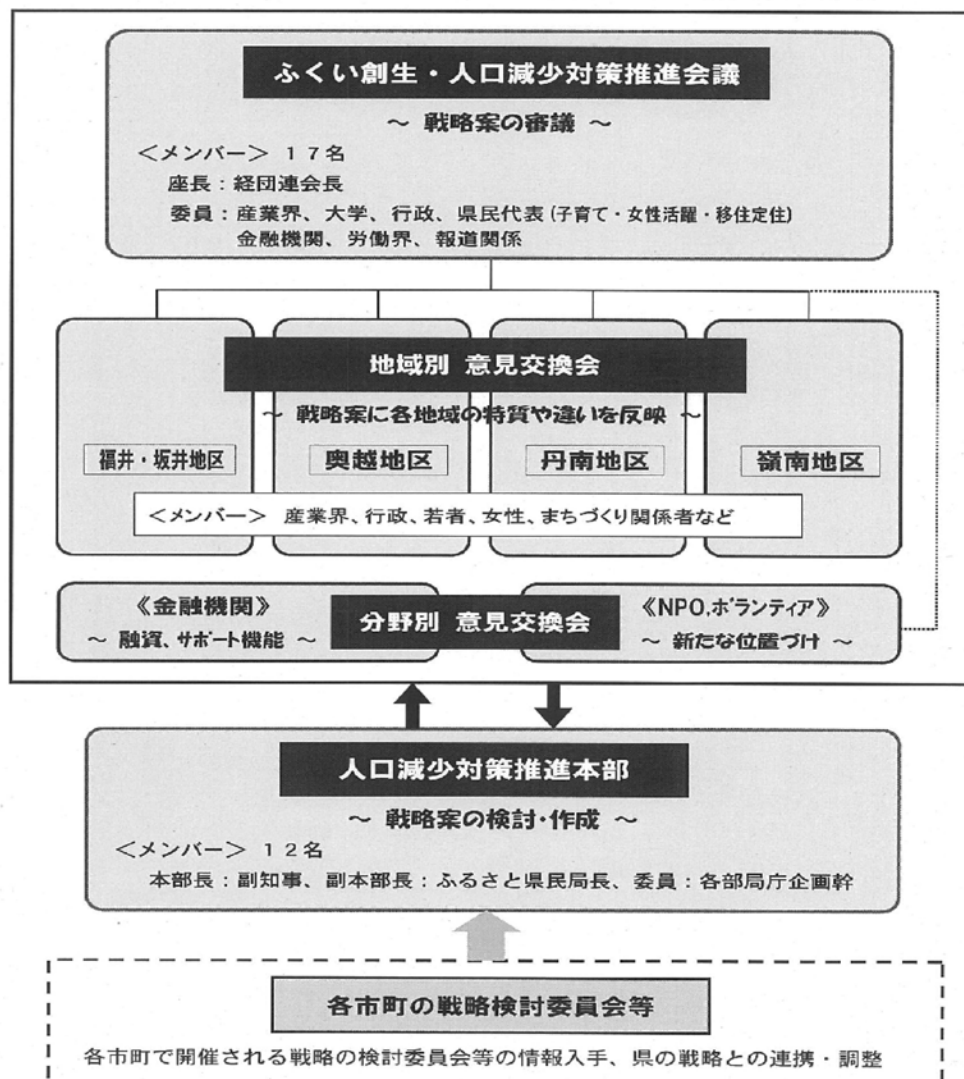
さらに、予算決算特別委員会では、「県内大学の定員枠の拡大や学部の新設をすべきではないか」と質したところ、「県内大学との連携をさらに強化して、地元受け入れ枠の拡大に取り組むよう働きかけを強めていきたい」との答弁があった。

その他にも政府関係機関の移転や結婚・子育て支援、女性が働きやすい企業の風土づくり、人口流出対策としてのU・イターンの促進、若者の雇用の創出など、様々な観点からの質問や意見が出された。

## 国勢調査等各種調査に基づく県の推計

## 人口減少対策特別委員会 説明資料

### 「ふくい創生・人口減少対策戦略(仮称)」策定体制



6月定例会で可決された議案

○平成27年度福井県一般会計補正予算  
(第1号)

○平成27年度福井県有林事業特別会計  
補正予算(第1号)

○平成27年度福井県港湾整備事業特別会  
計補正予算(第1号)

○平成27年度福井県病院事業会計補正予  
算(第1号)

○平成27年度福井県臨海工業用地等造成  
事業会計補正予算(第1号)

○平成27年度福井県工業用水道事業会計  
補正予算(第1号)

○平成27年度福井県水道用水供給事業会  
計補正予算(第1号)

○平成27年度福井県臨海下水道事業会計  
補正予算(第1号)

○福井県県税条例等の一部改正について

○厚生年金保険法等の一部改正に伴う関  
係条例の整理に関する条例の制定につ  
いて

○福井県流域下水道条例および福井県公  
共下水道等の構造の基準等に関する条  
例の一部改正について

○福井県立青年の家設置条例の一部改正  
について

○福井県立体育施設の設定および管理に  
関する条例の一部改正について

○福井県暴力団排除条例の一部改正につ  
いて

○福井県監査委員選任の同意について

平成27年6月定例会 意見書等の議決結果

◆意見書

| 議案番号  | 件 名                     | 議決結果 |
|-------|-------------------------|------|
| 発議第1号 | 原子力政策に係る安全・安心の確保を求める意見書 | 原案可決 |
| 発議第2号 | 安全保障法制の慎重な審議を求める意見書     | 否 決  |

◆請願・陳情

| 受理番号  | 件 名                                          | 議決結果  |
|-------|----------------------------------------------|-------|
| 請願第2号 | 「正しい日本地図」を活用した教育の推進を求める請願                    | 採 択   |
| 陳情第1号 | ほっとサポートふくいに関する陳情                             | 継続審査  |
| 陳情第2号 | ヘイトスピーチを禁止し処罰する法律の制定を求める陳情                   | 不 採 択 |
| 陳情第3号 | 年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用を求める意見書の提出に関する陳情 | 不 採 択 |
| 陳情第4号 | 福井県屋外広告物条例の規制見直し案に関する陳情                      | 継続審査  |

◆議員派遣

| 件 名                    |
|------------------------|
| 全国都道府県議会議長会新任議員研修会への出席 |

9月定例会 会期(案)

発行日：平成27年8月20日  
発 行：福井県議会広報会議  
問い合わせ先  
〒910-8580  
福井市大手3丁目17-1  
福井県議会事務局総務課  
tel 0776-20-0605  
fax 0776-20-0674  
HP <http://info.pref.fukui.lg.jp/gikai/youkoso.html>

|          |         |          |                 |
|----------|---------|----------|-----------------|
| 9月9日(水)  | 開 会     | 9月25日(金) | 新幹線対策特別委員会      |
| 9月11日(金) | 代 表 質 問 | 9月28日(月) | 原子力発電・防災対策特別委員会 |
| 9月15日(火) | 一 般 質 問 | 9月29日(火) | 人口減少対策特別委員会     |
| 9月16日(水) | 一 般 質 問 | 9月30日(水) | 予算決算特別委員会       |
| 9月18日(金) | 常任委員会   | 10月1日(金) | 予算決算特別委員会       |
| 9月24日(木) | 常任委員会   | 10月6日(火) | 閉 会             |

※上記の日程は7月17日現在の会期(案)であり、変更される場合もあります。  
※最新の日程は県議会HPでご確認いただくか、議会事務局までお問い合わせください。

※ 議案等に対する各会派の賛否の状況は、福井県議会HPでご覧いただけます。